

「飯田・リニアを考える会」が学習会を開催！ 「リニアが及ぼす自然環境への影響を考えよう」

市民など約150名が参加！疑問・不安・期待・思いを熱く討論！

- *南アルプスに穴を開けちゃっていいんですか！
- *伊那谷の豊かな自然と環境をズタズタにしたいのですか！
- *リニアの原罪！速いことは良いことか？

2月27日、長野県飯田市において、リニア学習会（主催：飯田・リニアを考える会・代表片桐晴夫）が開催されました。今回で第2回目の開催となり、住民など約150名が参加し沿線地域から見たリニア中央新幹線構想について熱い討論が交わされました。私たちJR東海労も、建設・営業主体に選定されようとしている当該企業に働く労働組合として参加し意見を述べてきました。

同日の午前中には、リニア駅誘致を進めるグループなどの集会も開催され、地元の関心が高まっていることが伺えます。しかし、参加者から、駅誘致の集会には複数のマスコミが取材していたが、午後からの、この学習会にはマスコミがあまり来ていないということが報告され、公平な報道がされていないことへの不信感が語られていました。また、推進を求めている側が、小学生に夢のリニア実現という「下敷き」を配るなど、全体的に推進ありきで問題点や多くの課題が語れないことへの不信感も報告されました。

今回の学習会では、慶應義塾大学川村晃生教授、伊那谷自然友の会・地質学者松島信幸氏が、それぞれの立場からリニア中央新幹線に対する報告を行いました。

川村教授は、速い・便利だけを追求する社会に疑問を投げかけ、本当の幸福とは何かを参加者に訴えました。松島氏は、地質学者として、多くの断層が走る南アルプスを中心にした伊那谷地域にトンネルを掘ることの危険性を訴えました。

二人の報告の後、熱心に討論が行われ、地域からリニアについて真剣に考え、本

当に必要なのかということを議論し合いました。私たちは、今後も沿線、地域の皆さんの意見を多く聞くため、様々な地域に足を運び交流を深め、リニア中央新幹線が抱える問題点を訴えていきます。



意見を述べる船出副委員長

リニアは、飯田・伊那地域の足となる公共機関として必要なのか！